



郷土史家・山崎徳三郎翁顕彰

先憂後楽の碑

深川小学校プールの向かい、赤崎山のふもとにこの碑がある。サツキの植込みに半ば埋もれた碑の正面には、題名の「先憂後楽」、裏面に郷土史家・山崎翁の業績をたたえる銘文が刻まれている。

昭和54年（1979）7月、長門市郷土文化研究会が建立した。

山崎徳三郎翁（号・北洋）は明治10年（1877）、萩に生まれた。のち深川村に転居し、明治34年から昭和6年までの30年間、小学校の教師を務めた。また翁は、郷土史研究の草分け的存在であり、文化財の保護にも貢献した。



大正14年（1925）、大津中学校（現、高校）の敷地造成のため、椽塚古墳が取り崩

された。翁は出土した貴重な副葬品の保護に尽力。その一部は現在、国立東京博物館に収蔵されている。

教師退職後は、郷土史の研究に没頭。小浜

山・三上山などの古墳や、板持の安楽寺（長門深川廃寺）遺跡の調査研究、そのほか数々の成果を挙げ、いまでも高い評価を得ている。また、近松長門出生説についても、遠く唐津、尼崎、大阪にまで足を伸ばし、徹底した研究を行なっている。

昭和24年（1949）、深川町農協が開設した図書館の司書に就任。昭和31年、同図書館が長門市へ移管されると、初代の市立図書館館長を務め、学術文化の振興に寄与した。著書にも『長門方言集』や『郷土史年表』などがある。

碑の題名「先憂後楽」は、翁の処世訓。「人に先立って天下を憂い、人の楽しんだあと自らも楽しむ」の意。

昭和四十四年没。九十二歳。翁の研究成果は『山崎文庫』として、市立図書館に大切に保管されている。（正）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）



こちら 119

秋季全国火災予防運動 11/9~15

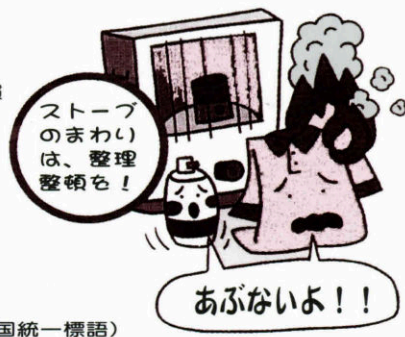
秋から冬にかけては、暖房機器等の火気を使用する機会が多くなり、空気も乾燥するなど、火災が発生しやすい季節となります。3つの習慣・4つの対策を心がけ火災を防止しましょう。

●3つの習慣

- 1 寝たばこは、絶対やめる
- 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する
- 3 ガスこんろのそばを離れるときは、必ず火を消す

●4つの対策

- 1 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する
- 2 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災製品を使用する
- 3 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器を備える
- 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる 「消す心 置いてください 火のそばに」 （全国統一標語）



長門地区消防本部・中央消防署
22・0119
火災時の問い合わせ
22・1414